



8月の園だより

令和8年8月1日

目黒区立中町保育園 園長

職員の研修で『保育園で実現したい遊び』を募ると、夢のようなものから現実的なものまでたくさんの案がでてきました。その中から選んだテーマは「流しそうめん」「かくれんぼ」「キャンプ」です。どのようにすれば夢を実現できるか、職員が3チームに分かれて話し合い、後日、年長組で“おひさまキャンプ”を開催しようと子どもたちに提案することにしました。

キャンプ経験のある子は「いいね」と言い、キャンプを知らない子は会話の中から少しずつイメージを共有し「お父さんお母さんにも聞いてみよう」とご家庭の協力も得て遊びの中で準備を重ねてきました。森の中のキャンプは模造紙で作った木々には折り紙のクワガタやセミがとまり、テントやランタンの明かりでホール内は“中町キャンプサイト”として雰囲気が造られました。

当日、子どもたちはわくわくした表情で登園し、フリスビーやバドミントンで体を動かし、自分たちで描いた魚をビニールの川に放流し魚釣り、ホールを真っ暗にしてホタルのほたりへ見学会です。折り紙のホタルがライトで照らされ、まるで本物のようでした。給食のカレーライスはおかずも一緒のワンプレートで「キャンプだねえ」とテーブルを囲んで美味しく食べました。おやつ前にスイカのピーチボールでスイカ割りをし、おやつはスイカが出てくるというサプライズもあり「明日もキャンプやりたいね」と言うほど、一日を振り返る会話も楽しい時間でした。子どもたちは手作りキャンプを通して、貴重な一日を過ごせたように思います。

私たちは子どもたちが楽しいと感じる保育園づくりのため、職員も考え協力し合えるチームでいたいと思います。子どもたちも体験から得たことが日々の遊びへ、大人も子どもも“楽しい”から学びに繋げていきたいと思っています。引き続き、保護者の皆様のご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

行事予定

身体計測 避難訓練

統合に向けた予定

保護者説明会

わたしたちの わがやさい



ほし組（3歳児）

トマトとナスを収穫しました。ナスは栄養士に保育室で調理してもらいます。事前にどんな味付けにしたいか聞いてみたところ「ごま油」「あとはお醤油がいい」と子どもたちから提案がありました。実際に目の前で調理してもらうと、ナスが焼ける音やごま油のいい香りがしてきます。「なんか音がするよ」「いい匂いしてきた、〇〇先生も食べたいかな」などと、友達や保育士とやり取りを楽しみながら、出来上がりを待っていました。「先生見て、食べたよ」「美味しいね」と会話しながら食べています。「〇〇先生も食べたいかな」「どうする、あげようよ」と、美味しさを分かち合いたい子どもたちでした。



つき組（4歳児）



「今日ピーラーするんだよね」と楽しみにしています。きゅうりを経て、人参の皮むきでは皮と実の手触り、わずかな色の違いを見比べながらむいていきます。栄養士から「給食の〇〇に出てくるよ」と教えてもらおうと「早く食べたいな」と期待の声が上がります。給食に出てくるとすぐに人参を見つけ、最初に食べて「ほっぺが落ちるくらいおいしい」と自分たちでむいた特別な人参を味わうのでした。さらに隣の5歳児クラスから「おいしい」という声が聞こえてくると嬉しそうな表情を見せ、栄養士にも「お手伝いしてくれて助かったよ」と言われて「毎日お手伝いしてもいいよ」と応えていました。食育活動を通して美味しさが広がる毎日にしていきたいと思います。



もも組（0歳児）

洗面器に水を入れると興味深そうに見ています。「お水だよ」と洗面器を置くとそっと手を伸ばして水面に触れ、笑顔がこぼれます。「お水、気持ちいいね」と声をかけると、水面を叩き始めます。水しぶきが顔や手足にかかり、さらに嬉しそうに笑っています。足についた水滴を見つけ、じっと見えています。指でちょっと触れると水滴が消え、不思議そうな表情を見せています。その気持ちを汲んで「なくなっちゃったね」と言うと「ん」と返事をして、また足を見て、その先にある地面に流れた水を見していました。子どもの心の動きをとらえて言葉にし、共感しながら一緒に水遊びを楽しんでいきたいと思えます。



たんぽぽ組（1歳児）

カップで水をすくい「ジャー」と言いながら傾けて水が上から下に流れ落ちる様子をじっと見つめています。そこに保育士が「気持ちいいね」と手を伸ばすと、再び水をすくい、自分の足にも水をかけ「きゃー」と声をあげながら、水の冷たさや心地よさを味わっていました。繰り返し遊んでいくと容器いっぱい水をすくうようになり、カップだけでなく、バケツや洗面器など大きい容器を両手で力いっぱい持ち上げ、一気にひっくり返して水をこぼして遊ぶようになりました。その様子を見ていた子ども同じことをしたくて水が入っているバケツを運ぼうとします。途中で水がこぼれると保育士の方を見つめています。「水出てきたね」と応えると、今度は容器を傾けるのではなく、上下左右に振ったり、足踏みをしたりして自分なりに水をこぼそうとしていました。様子を見たり、触れたり、音を聞いたりしながらそれぞれが思いっく遊びを楽しんでいます。



ばしゃばしゃ、ちゃぷちゃぷ、きもちいいね

ちゅうりっぷ組（2歳児）

水遊びを楽しみにしていた子どもたちは水を入れたペットボトルを手に持ち歩いています。歩くたびに水が揺れ、ペットボトルから跳ね上がった滴が手や足にかけると「あれ？雨が降ってきた」と不思議そうな表情を見せています。やがて、それが友達のペットボトルから飛んだ水だとわかると顔を見合わせて「雨みたい」と笑い声がはじけました。自分でも上下にペットボトルを振って腕や足に水を落としてみたり、よしずにかけた水が上から降ってくると「きゃっ」「つめたーい」と言ったりしながらまるで雨の中にいるような気分を味わっています。「雨だー」と言いながらタライの水をひしゃくですくって友達と掛け合いっこをするうちに、勢いよく飛ばした水しぶきはどんどん大きくなり、顔に水がかかっても気にする様子もなく友達と一緒に全身で水の心地よさを楽しんでいます。夏の間、水の素材の面白さや不思議さを子どもたちと楽しんでいきます。

